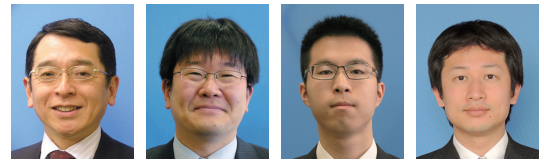


次世代協調 ITS に関する 共同研究



道路交通研究部 高度道路交通システム研究室

室長 牧野 浩志 主任研究官 小木曾 俊夫 研究員 大竹 岳 交流研究員 広 正樹

(キーワード) 協調 ITS、賢く使う、安全運転支援

3.

賢く使う

1. はじめに

協調 ITS とは車対車、車対インフラ及びインフラ対インフラの通信を統合し、通信方式やデータ形式などの整合を図ることにより、車、路側機、センサー、個人端末などが相互に情報を交換し、それを安全、道路・交通管理、物流管理、環境、情報収集・提供などの多様なアプリケーションで共用するシステムのことである。

2. 共同研究の内容

本共同研究では、自動車の保有する車両情報と道路管理者の保有する情報のうち相互に活用できる情報の検討と、情報交換するための具体的な手法について検討し、道路管理の効率化・低コスト化と安全で快適な自動運転等の実現を同時に可能とする次世代型の協調ITSの研究開発を行っている。(図-1)

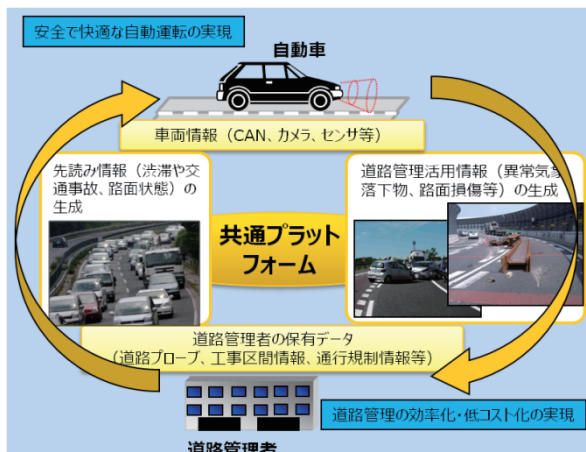


図-1 次世代型協調ITSのイメージ

3. 研究項目と共同研究者

共同研究は、次の3つのワーキング形式で検討を進めており、道路管理者、自動車メーカ、電機メーカ等の民間企業17社と行っている。(図-2)

1) 道路管理高度化WG

車両の保有する様々なセンサ情報を路側に提供し、道路交通や路面等の状況を把握することにより、道路管理を効率的に低コストで実施できる具体サービスについて検討を行う。

2) 運転支援WG

路側が収集した情報を集約し、車両に先読み情報等として提供することにより、自動運転等の安全・円滑に資する運転支援の具体サービスについて検討を行う。

3) 共通プラットフォームWG

道路管理高度化に資するサービス・運転支援に資するサービスに共通する横断的なプラットフォーム(地図、通信技術等)の開発・試験、技術基準・技術仕様の策定を行う。



図-2 共同研究者

4. スケジュール

早期に実現可能なサービスは、2016年度までに国総研試験走路での走行実験を検討中であり、研究開発が必要なサービスは、技術的な要件を整理し、共通基盤技術の研究開発を実施していく。